



“やりがい”

を持って楽しむ

井手町 安澤 由佳さん

井手町で生まれ、幼い頃に看護師になるという夢を抱いた。看護学校から保健師学校へ進学した時、健康に関するアドバイス等を行い、対象者が自主的に健康維持に努めている姿に予防教育の魅力を感じ、保健師の道へと進んだ。卒業後は、奈良県の保健師として3年間勤め、その後、地元井手町の保健師となり、現在4年目、日々笑顔で奮闘中だ。

「住民一人ひとりの顔を見ながらしっかりと対応できることが楽しいですね。」

井手町の保健分野の保健師は3人。人口規模が小さいため、業務を分担するのではなく、3人で母子、成人、高齢者まで、全ての住民を対象に事業を実施している。

少子高齢化が進行する中、成人男性にメタボリックシンドローム予備群が多く、その年齢層の高齢化による医療費増加が危惧される。そのため、成人の健康づくりを課題として、検診等の受診率向上のため、より多くの方に受診をしてもらえる環境づくりに努めている。

また、10代での妊娠・出産が増加傾向にあることから、育児支援を行いながら思春期保健に力を注いでいる。中学校を訪問し、性教育をはじめ防煙教室なども実施し、思春期から健康や身体の知識を身につけてもらうよう取り組んでいる。

住民と信頼関係を築き、課題等を引き出していくためには、まずはコミュニケーションをとりやすい環境を作り、健康に関する知識の有無などから、個人個人に対してより有益な情報を提供しよう心がけている。

「自分のやることに根拠を持って、行動していきたいです。」

地域の保健師として住民により多くを還元するためには、事業の根拠・目的等について疑問はできる限り解消・改善するように努めている。また、意見を受け止め、議論してくれる仲間にも囲まれ、近年では効果の薄い事業を見直し、より効果的なものを企画・実施している。事業の見直しは業務が増えるため大変であるが、より良い事業の企画はやりがいがある楽しいという。

「日々を楽しんで生きていきたいですね。」

楽しむことで自然と笑顔が生まれ、それは住民・職場仲間をはじめ接する人に伝わり、周囲との良い関係につながる。また、楽しむためには、“やりがい”が不可欠であり、特に日々の大部分を占めている仕事に対して“やりがい”を感じるかどうかが重要だという。

会話力など保健師としての技術・知識などを深めながら、住民から引き出した思いをより効果的に還元するべく、これからも“やりがい”を持って働いていきたいと語った。